

遠藤ファーム

～景観ヒマワリで笑顔でエコ～

<基本情報>

- 所在地: 埼玉県熊谷市
- 取組開始: 平成20年

<取組概要>

- 経営面積: 7ha
- 構成員: 5人
- 主要作物: ねぎ・やまといも・はちみつ・ごぼうほか
- その他: 有機質肥料や緑肥作物の導入等による安全・安心に重点を置いた取組を行う。

以前はソルゴーを緑肥作物として輪作体系を構築していたが、現在は花が楽しみ景観形成にも役立つ「菜の花・クローバー・ひまわり」を作付けし、はちみつの採取・販売にも取り組んでいる。



<栽培技術>

- クローバーは根粒菌により空気中の窒素を固定し、ひまわりはアーバスキュラ菌根菌によりリン酸を再活性化し作物が吸収できるようにしてくれるが、これらクローバーやひまわり等を緑肥として栽培・使用することで、連作を回避するとともに土壌菌のバランスを整え、土壌環境の改善による土づくりに努めている。

これにより、土壌環境が良好になり、栽培する作物の品質が良くなる。

遠藤ファームはエコファーマーに認定され、持続性の高い農業生産方式を導入しており、特に堆肥の利用に積極的で、今年度は23トンの購入増を計画している。



<販路の確保に向けた取組>

- ひまわりや菜の花が咲くほ場は、インスタグラム等のSNSが流行する中で、多くの人々が撮影ポイントとして立ち寄ってくれるという副産物としての集客効果を持っている。

この集客効果を生かしてイベントを開催し、はちみつ搾り体験を実施するなど、食育と販売を兼ねた取組を行っている。

更なる販路を確保するため、現在、花を使った緑肥栽培の農産物とはちみつとをコラボレーションした加工品の開発を進めており、持続可能な収益性の高い農業経営の実現を目指している。

平成31年には、6次産業化の第一弾として、新たに設置する店舗ではちみつ販売を開始する予定である。



<地域内外の波及に向けた取組>

- 現在、菜の花やひまわりを緑肥として栽培し、二酸化炭素の発生抑制に取り組んでいる。

将来は、農機具メーカー等と連携して、菜の花等の油を原料としてトラクター等の農業機械に使用するBDF(バイオディーゼル燃料)の実用化を推進し、さらに地球温暖化の防止に取り組む計画である。

